

尋常小學修身訓

生徒用 三年上

檢定申請本

120.1

43

4

K120.1

43

4

關藤成緒撰

生徒用

尋常小學修身訓

東京 教育書房藏版

一國之強弱、全視其國民之進退、且國民之進退、全視其教育之善惡、故教育者、國家之根本也、凡我國民、當自勉勵、以盡國民之義務、而為國家之貢獻、此修身訓之宗旨也、

陳壽

勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇クルコト宏遠ニ徳ヲ
樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆
心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華
ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ
兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己ヲ持シ
博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓
發シ徳器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ常
ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ
奉シ以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キ
ハ獨朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ爾祖先ノ
遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣
民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ
中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺
シテ成其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名 御璽

勅語 父母之孝

小徳義堂書

昭和二十三年十月三十日

ニテ其意ヲ示シテ其意ヲ

中世ニ於テ其意ヲ示シテ其意ヲ

月ノ身ニ其意ヲ示シテ其意ヲ

後ノ世ニ其意ヲ示シテ其意ヲ

貴族ノ其意ヲ示シテ其意ヲ

ハ其意ヲ示シテ其意ヲ

奉ルルニ其意ヲ示シテ其意ヲ

尋常 小學修身訓 第三年上冊



關藤成緒選

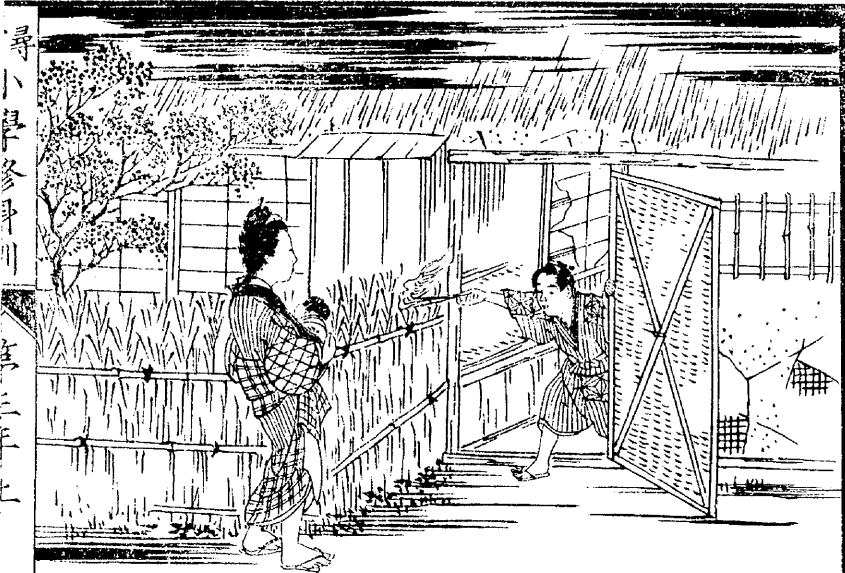
勅語 父母ニ孝

第一課

父母のをんは山よりたかく
くうみよりふかー 童子教

ニノミヤキンシラウ
二宮金次郎の母ひとりにて三人の

子をやいなふになんぎをきはめた
れば金次郎にはかり末の子をだ
にあづけて口をへらさんどて志ん
るゐにたくーかへりてよりよもす
がらねもやらずまいよかなーめり
金次郎母の心をさつー其いつくー
みの切なるを知らないていはくた
どひあかご一人ありともなにほどの



ことかあらん明
日よりわたくー
弟をやいなはんす
みやかにもごーたま
へと母大によろ
こび今よりつれも
ごらんどてただち
に行かんどす金

常川巻 作三言 第三卷

次郎 これを止めて夜あけなば我行
きてつれきたらんといへば母よなか
のゆきかへりなんのいごふことあら
んとてただちに行きてつれかへりよ
ろこぶことかぎりなかりと金次郎

この時十四才なり 報徳記

第二課

衣食のやいなひあさばんの

つとめはいふにねよはずす
べて身をつつゝみて父母
の志にそむかざるやうにす
べー

はつ女ハイトケナクシテ父ニオク
レ老病ノ母一人アリ七八才ノコ
ロヨリクダモノナドウリテ母ヲ
ヤシナフ或日母今日ノ錢ハ多ク

シテ アスノコト心ヤスシトヨロコ
ビケレバコレヨリ錢ノ少キ日ハ
母ノトボシカラントイハンコト
ヲカナシムニゾ人人アハレミカヒト
リテヤリケル十オヲモスギヌレバ
糸ヲヒキハタヲオリ人ノ衣フク
ヲアラヒヌヒ或ハ人ニヤトハレ
テクスリヲモトメ衣食ヲトトノヘ

心ヲツクシテ母ニツカヘケルト
ゾ備忘録

第三課

恩をうけてはかならずその
恩にむくいんことを心に

かけてあするべからず 筆の隨意

ナカエトウジユ 中江藤樹 十二オノココロ食事ヲスル
トキツラツラオモヘラクコノ食ハ



コレタレノ恩
ザヤ一ニハ父母
ノ恩二ニハ祖父
ノ恩三ニハ君
ノ恩ナリ今ヨリ
後ハチカツテツ
ネニコノ恩ヲオ
モウテワスルルコ

トナカルベシトマウサレタリトカ
クノゴトクココロガケヨカリシカバ
セイジンノ後ハユウメイノ大ガク
シヤトナラレタリ 藤樹先生年譜

父母のたんはしゆみせん
わだつらみたかさふかさの
かぎりなければ 父兄訓

勅語 兄弟二友

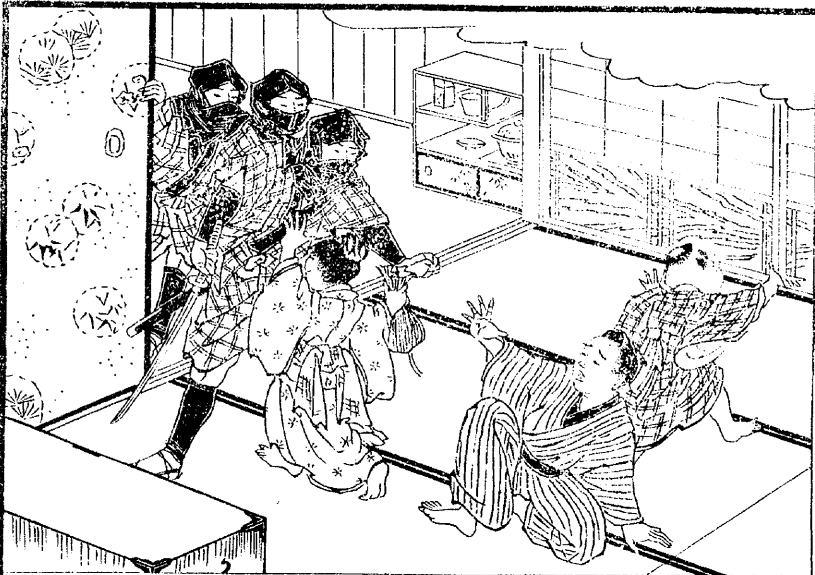
第四課

兄と弟はおなご母のはら
 よりいでおなご父の手に
 いたかれーものなりーかるに
 兄弟を志んあいせざればなにも
 のをもて志んあいすべきもの

とするや

勸懲雑話

とみ女ハ兄一人ト弟二人アリ父
 ハ世ヲ去リ母一人ニテコアキナ
 ヒヲシテ世ヲワタレリアル夜ト
 ウヅク三人ヌキミヲモチテハイリ
 タリ母ハ早クヲサナゴヲイダキ
 テニゲ兄仁三郎モツヅイテ出シ
 トスヌスビトドモコレヲトラヘ金



ノアリカヲ問フ
 知ラズトイヘバイ
 ハネバカクスルゾ
 ト刀ノミネニテ
 打チタリとみ女
 ワヅカニハオナ
 リシガオドロキカ
 ナシミ金ノモラセ

タメタルフクロヲ出シ兄ヲ後ニ
 カコヒヌキミノ下ニ走リヨリ金
 ノノゾミナレバコレヲアタヘン兄
 上ヲバユルシタマヘユルサレズバ
 我ヲコロセヨトイフニトウゾクモ
 カホミアハセヤサシキラサナゴモ
 アルモノカナトテソノママタチサ
 リタリト

備忘録

俚諺 仁者にてきな

第五課

兄より弟をあいせずとも
弟は弟のみちをういなふ

べからず 童子訓

儀助は早く父をういなひ兄とた
ななくすみーがある時兄をいさめ

ーに兄大にいかりて儀助をたひい
だせり儀助さらにうらみとせず人
をしていろいろとあやまりーかど
きかざればそのいかりのとくるま
でとてきんぺんに家をかりて三
年ばかりすみけるに兄の家やうや
くたどろへーかば儀助これをなげき
兄の心にさはらぬやう米錢を

母にたくしてわくりける兄はま
すますこんきうしてやきをうり
たれば母ふかくうれいはじめの
ごとく兄の家にすませければ儀助
大によろこび力をはげましてぎや
うをつとめくらうややたやすくな
れりかかり後には兄もこれをあ
はれみすすめてつまをむかへ別に

家をまうけりめたりと 孝義録

俚諺 うらみはわんでむくいよ

勅語 朋友相信ス

第六課

朋友はたのもうげありてなん
あればあいたすけうれへあれば
あいすくふづー

初學訓

アラキハクセキ
新井白石

土屋氏

ニ仕シ

トキ

ワカザム

ラヒノアイダニアラソビオコリア

イタタカハントス一方ニハ白石ノ

父ノシタシキ關トイフ人アリコ

ノコトヲ白石ニ知セシモノアリ白

石ツノ人ニタタカヒハジマラバハ

セカヘリテツケヨトイヒツケ己ハ

シタクヲトトノヘウチフンタリ夜

ニ入りテツカヒノモノカヘリコト

ナクオサマレリトツグアクル日關

ノ子來リ我方ヲタスケントノ志

ハシヤスルニコトバナシサレド

カンキノ身ニテワタクシニ家ヲ

出シコト其ツミカロカラズトイフ

白石ワラヒテサラバ人人ノタタカ

ハントセシハツミニアラズトヤ

オモフ我カンキヲカウムリタレド
家ニコモリキタラシニハコトヲコ
ウギニヨセテ死ヲマヌカレタル
ナリトコソ人モオモフベケレ我
カクオモヒタチシコトハ只我身ノ
ハヂナカラシコトヲオモヒシノミ
トイフ關ノ子カヘリテソノ父ニ
カクトイヒシカバナミダヲナガシ

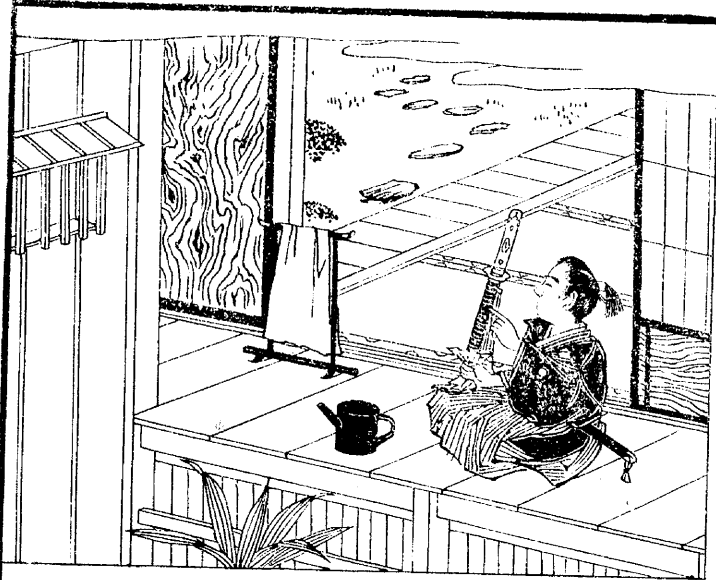
テヨロコビシトゾ 折燒柴の記

俚諺 いのちはぎによりてかる

第七課

かげひなたなく一すどにまこ
となるを信といふ信とは
しようぢきのことなり 貞丈家訓

モリランマル 森蘭丸 ノブナガコウ 信長公
ノ刀ヲモチテトモセ
シトキ其刀ノサヤニキザメルダ



ンダンノスヂヲカヅヘキタリ信長
ヒソカニコレヲ
見タマヘリ後信長
キンジユノコシヤ
ウニコノ刀ノス
ヂノカズヲイヒ
アテタルモノニ
コノ刀ヲアタヘン

トノタマウ各各イロイロノカズヲ
マウシアグルニ蘭丸ヒトリイハザリ
シカバ信長ナニユエイハヌト問ヒ
タマウ蘭丸私ハイツヅヤ其カズ
ヲカヅヘテオボヘテオリマスルユエ
マウシマセントイヒタレバ信長其
イツハラザルヲホメテ其刀ヲタマ
ハリシトゾ常山紀談

ともだちのまことあるには
たひよれいつはりあらば
かるべし 愚息教歌

常小學修身訓 第三年上冊終

明治廿六年十一月廿六日印刷
同 廿六年十二月一日發行

二年上冊 各定價金參錢
四年下冊

撰者 關藤成緒

廣島縣深津郡福山町
字西町五百六十番邸

版權所有

發行兼
印刷者

林縫之助

東京京橋區南禎町七番地

賣捌所

吉川半七

東京京橋區南傳馬町二百十五番地

